

強み分野の拠点形成（WPI等）による国際的な研究力の強化や研究基盤の構築について

- WPI拠点は、**新たな学理の創出**により我が国の研究力をけん引するだけでなく、国際的に開かれた環境の中で世界中から一流の研究者が集まる**国際頭脳循環の場**とするとともに、拠点運営にあたっては従来の大学の常識に捉われない**システム改革を先行して実践**し、その有効性を示してきた
- WPI拠点が培ってきた高度な研究環境やマネジメント方策は、各大学において横展開されており、国際卓越研究大学の形成にあたっての**重要な役割を果たしてきた**
- 産業競争力・研究力中核大学群の形成においても、特に高い研究力を有することが要件案として議論されているところ、特に高い研究力に関してはそのベースとして取組のモデルとなる「核」が必要
- **「世界で競い成長する大学」へと飛躍させていくために**、WPIなどの拠点を形成しつつ核として、大学の強みを象徴する世界トップレベルの研究拠点を形成し、これを**旗印にしてその活動を大学全体に波及させていくことが必要**

国際卓越研究大学と既存のWPI拠点の取組（事例）

【京都大学 WPI-iCeMS、ASHBi】

- 京都大学ではデパートメント制の導入を計画。この制度設計にはWPI拠点の取組が多方面で還元されている。例えば、WPIの拠点長によるトップダウンの戦略決定は、デパートメント制におけるチェア・パーソンによるマネジメントに繋がっている。また、専門人材を配置した研究支援組織（iCeMSにおけるRAD※、ASHBiにおけるRAU※）は、デパートメントオフィスにおける研究支援体制のモデルとされている。さらに、海外PI・Co-PI制度は、更なる国際化に向けた全学的な展開が期待されている。

※RAD：Research Administration Division、RAU：Research Acceleration Unit

【東京科学大学 WPI-ELSI】

- 東京科学大学では、**8つのVisionary Initiatives（VI）を構成**。それぞれのVIでは、WPI-ELSIのコンセプトをモデルとして、大きなヴィジョンのもとに多くの分野の研究者が集い、**研究の異分野融合を推進**している。
- また、WPIにおける研究/事務部門の体制を参考に、VIはアカデミアの職階に捉われないフラットな研究体制、PDと事務部門長（Administrative Director）を基盤にした運営体制とするシステム改革が行われている。

